

自然教室だより

辻本信一

12月・奈良公園自然観察会報告

平成28年12月7日(水)少し肌寒い朝を迎えましたが、日中はほとんど風もなく、明るい日差しのもと、最高の自然観察日和となりました。

午前10時、近鉄奈良駅、行基菩薩立像前に、女性4名、男性5名の9名の方にご参集いただき、和気藹々とした雰囲気の中、奈良公園における冬の自然観察会がスタートしました。

東向き商店街を通り抜け、三条通を東に折れ、一路春日大社の参道に向かいます。今年の各地の紅葉は例年より1~2週間早く、紅葉を鑑賞するには少し後れを取った感がありますが、幸い三条通りに枝を張り出した興福寺のイロハモミジの紅葉は健在、

明るい日差しのもと青空をバックにひとときわ映え思わず足を止めてしまいます。



【興福寺イロハモミジの紅葉】

春日大社の一の鳥居を過ぎしばらく行くと、その左手には中心部から数本の竹が顔を覗かせた名物のムクロジの大木。見上げるとまるでセンダンと見紛う程に枝いっぱい実をつけています。

足元にも鹿に食べられずに済んだ実が落ちていました。それをつぶし水の入ったペットボトルに

入れしっかり振りまわるとみるみる泡立ち、確かにサポニン成分が含まれていると皆さん実感。



【鈴なりとなったムクロジの実】

国立博物館に通じる広場にあるサイカチの木に

も、同様にサポニンを含んだ豆のサヤ状の大きな実がいくつもぶら下がっていました。残念ながら、こちらは日が経ち過ぎていたのかあまり泡立ちは見られず。この後もサンゴジュ、クスノキなど、常緑樹の紅葉も自らの目で確かめながら、飛火野へと向かいました。

数日前から始まった鹿の愛護会による「鹿寄せ」は、この日も午前10時から催された様子。あちこちに食べ残しのマテバシイのドングリが見られました。そのせいか、この日私たちが準備したドングリに対しても反応は鈍いものでした。

お蔭で昼の弁当は鹿に邪魔されずに食べることが出来、ある面ラッキーな事も。ここで奈良の鹿についての情報を参加者の皆様にご披露させて頂きました。その時の資料は、後日、ならやまの活動日にも配布させて頂きました。(必要な方はメールで送らせて頂きますので、ご連絡ください。)

飛火野では、花芽を付け冬支度真っ最中のイ

ヌガシの雄木、雌木を観察、実が出来ている雌木の方が幾分花芽は少なく感じました。



【飛火野の銘木、雷のクスノキ】

坂を下ると、そこには名物の「雷のクスノキ」。本来痛々しく見えるはずの雷の痕も青葉を茂らせ頑張っている姿を見ると、思わず心を打たれ、ある種の風格を感じます。

大木といえば、この近くで見かけたイヌシデの木も立派でした。

よく見ると枯葉の様に見えたのはイヌシデの実。半月型が特徴です。まだまだ観察は続き



【イヌシデの大木】

ますが、紙面の関係で今回の報告はこの辺で…。

それでは次回観察会でまたお会いしましょう。